

# 立間川水系河川整備計画

## 河内川第一水門（潮止め施設）の改築に関する説明会の開催結果【概要】

日 時：令和 4 年 2 月 7 日（月） 14 時～20 時

場 所：御殿内集会所（宇和島市吉田町立間尻甲 2083 番地 2）

出席者：16 名（御殿内地区住民及び自治会長、喜佐方地区農業関係者、市議会議員が参加）

備 考：配布資料を県ホームページに事前掲載したうえ、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、オープンハウス形式で開催。

### 1. 河内川 潮止め施設の改築計画の説明

※ナレーション付きの動画で改築計画（配布資料）を説明。

### 2. 質疑

<主な質問・意見>

Q 潮止め施設改築工事の着工時期と工事期間は？

A 令和 4 年度に地質調査と詳細設計を予定しており、工事は早くても令和 5 年度から施工可能であるが、統合小学校建設事業等との調整が必要であるため、着工時期は決まっていない。また、事業間調整が円滑に進んだとしても、工事期間として 3 年～4 年程度は必要になると考えている。

Q 一日でも早く河川整備に着手、完了させ、浸水被害の軽減を図って欲しい。

A 統合小学校建設事業等との連携を図り、地域の皆様の生活、児童生徒の学校生活への影響が少なくなるよう、工事を進めたいと考えているので、ご理解、ご協力をお願いしたい。

Q 水門がなくなるのは良いことである。

A 現水門の撤去は新しい潮止め施設改築工事が完成した後になるので、改築工事の早期完成に努めたい。

Q 排水ポンプの能力アップなど、内水対策は実施しないのか？

A 宇和島市において、御殿内地区の内水対策の調査をはじめたところであるが、潮汐も新しい潮止め施設の位置まで影響することになるので、浸水被害の軽減に向けて、河川改修事業と内水対策事業を連携して進めたい。

Q 平成 30 年 7 月豪雨では、道路側溝や暗渠が土砂で詰まり、浸水被害が拡大した。豪雨に備え、国道 378 号等の排水溝の清掃をお願いする。

A 豪雨に備えた排水溝の維持管理について関係部局に連絡する。

- Q 河川沿いの道路（学校側）は広がるのか？
- A 河川事業では道路は広げないが、宇和島市が実施する統合小学校建設事業等で、中学校グラウンド～体育館横の道路が部分的に広がると聞いている。
- Q 河川沿いの遊歩道（住宅側）はどうなるのか？
- A 地域の皆様が遊歩道として利用されている河川管理道は、潮止め施設改築工事後も河川管理道として残るが、工事中は通行止めで散歩等ができなくなる期間もあるので、ご理解、ご協力をお願いしたい。
- Q 新しい潮止め施設の整備位置は、水田耕作者にとっても最適な位置である。東蓮寺ダムの事前放流のように、今後も河川と農地で連携して、様々な治水対策を検討して欲しい。
- A 河川と農地の関係部署だけでなく、地域の皆様とも連携して、新たな流域治水の取組みを検討していきたい。
- Q パラペットによる河川改修区間も含めて、緊急時に河川に降りられるように、階段等を設置して欲しい。
- A 必要性を整理したうえで、昇降場所や構造等を検討したい。
- Q 豪雨時の避難行動支援として、河内川にも河川監視カメラを設置して欲しい。
- A 宇和島市とも連携して、河川監視カメラの設置を検討したい。
- Q 立間川と国安川の分流堰を廃止すれば、河内川の流れが良くなるのではないかと？
- A 分流を廃止してしまうと、平成30年7月豪雨クラスの大出水が起これば、河内川の流れは良くなると思うが、立間川の流れが悪くなり、立間川の方から溢れて、吉田病院等の周辺が大きく浸水し、機能不全になることも考えられる。このため、立間川水系河川整備計画に基づき、まずは第一期工事で河内川と国安川を改修し、次に第二期工事で立間川を改修して、水系全体の治水安全度を向上させてから、分流堰を廃止することについて検討すべきであると考えている。
- Q 気候変動の影響で海面の水位上昇も予測されているが、どのように考えているのか？
- A 気候変動の影響を踏まえ、対策の考え方も「過去の降雨実績や潮位に基づくもの」から「気候変動による降雨量の増加や潮位の上昇などを考慮したもの」に見直されつつあるが、改築計画では、海面の水位上昇までは考慮していない。ハード整備には限界があることから、想定最大規模等の水災害に対しては、避難行動等のソフト対策による防災・減災対策に、地域の皆様と一体となって取り組むことが重要と考えている。
- Q 継続的な河床掘削や河道内の伐木を要望する。
- A 河床掘削や河道内の伐木は治水安全度の向上に即効性が高いことから、立間川水系においても、重点的に河床掘削に取り組んでいるところである。また、改修後も継続的に河床掘削や河道内の伐木を実施し、河川断面を確保しなければならないと考えている。

### 3. 今後の予定

説明会開催の結果、立間川水系河川整備計画に基づく河内川第一水門（潮止め施設）の改築については、新しい潮止め施設（鋼製堰）を吉田中学校グラウンド横～体育館横の区間に整備して、現在の河内川第一水門を撤去する計画に対して、反対意見も無く、概ねの地元の同意が得られたと考えております。今後は、

- ・地質調査等の必要な調査を実施し、詳細設計を進める。
- ・統合小学校建設事業等と調整を行い、河川改修工事のスケジュールを検討する。
- ・宇和島市の関係部局と連携して、新しい潮止め施設の操作規則や管理方法等を検討する。

予定としておりますので、引き続き、立間川水系河川整備計画に基づく河川改修事業へのご理解とご協力をお願いいたします。

## 【参考】 改築計画(配布資料)の説明

### 1 ページ

立間川水系河川整備計画、河内川、潮止め施設の改築計画について説明させていただきます。

### 2 ページ

まず、平成 30 年 7 月豪雨による立間川流域の浸水状況。立間川流域では、7 月 5 日から 8 日まで雨が降り続き、7 月 7 日の朝には時間雨量 96 ミリの猛烈な雨が降り、総雨量は 372 ミリに達しました。これにより、流域のいたるところで、河川の氾濫、内水の氾濫による浸水被害が発生しました。

愛媛大学の災害調査団の記録によると、河内川沿いでは、2 メートルを超える浸水箇所も確認されており、流域のなかでも、特に大きな被害になりました。

### 2 ページ (映像)

#### ●平成 30 年 7 月豪雨 (喜佐方) の映像

これは、宇和島市から提供していただいた平成 30 年 7 月豪雨の映像で、喜佐方小学校前の県道の様子を映しております。

道路が川のようにっており、これまでに降ったことがないような猛烈な雨であったことが伺えます。

#### ●平成 30 年 7 月豪雨 (沖村) の映像

こちらは、沖村から御殿内方面を撮影した映像です。辺り一面が大きく浸水している状況が分かります。

### 3 ページ

愛媛県では、平成 30 年 7 月豪雨による立間川流域の甚大な浸水被害を受けて、宇和島市と連携し、令和 3 年 3 月に立間川水系河川整備計画を策定しました。

この立間川水系河川整備計画は、「ボトルネックとなっている橋梁の改築」や「河川断面の拡大」といった河川改修を段階的に実施し、中心市街地の浸水被害の軽減を目指す計画となっております。

地図で、赤色で示している箇所が第 1 期整備の対象となる河川で、まずは、甚大な浸水被害があった河内川流域からの洪水の流れを改善する対策を概ね 10 年間で実施します。

第 1 期整備の内容としては、ボトルネックとなっている国安川の宮繕前橋と石神橋を改築します。

また、パラペットと呼ばれる特殊な堤防を整備し、河川断面を拡大します。

ガードレール程度の高さのパラペットを整備することで、護岸の高さが上がりますので、河内川の図書館横に設置された潮止め施設の河内川第一水門についても改築が必要になります。

### 4 ページ

ここで、河内川の潮止め施設について、説明します。

現在の河内川第一水門は、昭和 47 年当時の河川改修工事に際して、土地改良区が管理する潮止め水門を県が補償工事で整備した施設です。その後、昭和 49 年に土地改良区から県に寄付されて、県の施設になりましたが、県と吉田町で委託契約を結んで、県が施設の修繕と改良を、吉田町が水門の操作と維持管理を行ってきております。

吉田町誌には、河内川は昔、現在の喜佐方小学校あたりまでが海で、水田の潮止めに対する工夫が課題であったことが記録されています。

高度経済成長期以降、国安川との合流点から吉田中学校付近までの河内川周辺は宅地化が進みましたが、吉田中学校よりも上流は、現在も稲作が続いております。

これらの水田は、地盤の高さが低いため、今後も潮止め施設による塩害対策が必要になります。

## 5 ページ

潮止め施設の改築を計画するにあたって、まずは構造形式を検討しました。

潮止め施設の構造としては、引上タイプの水門、起伏タイプのゴム堰、転倒タイプの鋼製堰の3つのタイプがあります。

引上タイプの水門は、現在の河内川第一水門と同様の構造で、河川を横断する潮止め施設の中では、最も採用実績が多い形式です。しかし、修繕工事を行う際には、大規模な仮設の水路を設置する必要が生じます。また、近年の気候変動の影響による豪雨の激甚化に対応した水防法の改正に基づいて、ハザードマップに示されることとなった想定最大規模クラスの豪雨で、大洪水が発生した場合、水門で流木等が詰まり、近隣の被害を拡大させる恐れがあるといったデメリットも考えられます。

次に、起伏タイプのゴム堰は、通常時はゴムの袋が膨らんで、潮の遡上を防ぎ、洪水時にゴムの袋が萎み倒伏する構造になります。通常時の流水は併設するバイパス水路から流します。

起伏タイプのゴム堰は、修繕工事において、バイパス水路を仮設水路として利用できるというメリットがあります。しかし、上流と下流の水位差が小さく、かつ、流速が小さい場所では、ゴムの袋が完全に倒伏しないことがあるほか、倒伏したゴムの袋に、洪水時の土砂が堆積した場合、復旧が困難であるとともに、撤去時にゴムの袋が損傷する恐れがあるといったデメリットもあります。

最後に、転倒タイプの鋼製堰は、通常時はゲートが起立して、潮の遡上を防ぎ、洪水時にゲートが倒れる構造になります。通常時の流水は、起伏タイプのゴム堰の場合と同様に、併設するバイパス水路から流します。

また、転倒タイプの鋼製堰も、修繕工事において、バイパス水路を仮設水路として利用できるというメリットがあります。

これらのことから、新しい潮止め施設は、転倒タイプの鋼製堰で計画することとしました。

## 6 ページ

次に、潮止め施設を改築する場所を検討しました。

検討にあたっては、

1、現在の水門の位置から水田までの間で、新しい潮止め施設となる転倒堰を整備し、その後、現在の水門を撤去する。

2、工作物の設置が不適当とされる水衝部のカーブ区間は避け、直線区間に整備する。

3、工事による市道の通行規制など、地域の皆様の日常生活への影響が最も少ない場所に整備する。

の3つの基本的な考え方で、改築する場所を検討しました。

その結果、吉田中学校の用地を工事の施工ヤードや市道の迂回路として利用できるようにするため、他の場所に比べて、工事による影響が最も少なくなることから、吉田中学校グラウンドから体育館横の区間を新たな潮止め施設の位置として選定しました。

## 7 ページ

最後に、今後の予定などをお知らせさせていただきます。

新しい潮止め施設として、転倒堰を、吉田中学校グラウンドから体育館横の区間に計画しますので、同箇所での地質調査などの必要な調査を実施し、詳細設計を進めます。

また、吉田中学校グラウンドでは、統合小学校建設事業等が計画されておりますので、これらの関係する事業と工程調整を行い、河川改修工事のスケジュールを検討いたします。

さらに、宇和島市の関係部局と連携して、新しい潮止め施設の操作規則や管理方法等を検討いたします。

これらのことが決まりましたら、地域の皆様にお知らせさせていただきますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上で、河内川、潮止め施設の改築計画についての説明を終わらせていただきます。

ご意見・ご質問がある場合は、南予地方局河川港湾課まで、ご連絡をお願いします。

ご清聴ありがとうございました。